



医療的ケア児の安藤那月さん

伸ばした髪、必要な誰かへ

16歳、3度目の優しさ届ける



「ヘアドネーション」のため伸びた髪をカットしてもらう安藤那月さん（右）＝大分市猪野

【大分】人工呼吸器などの医療処置が日常的に必要な「医療的ケア児」の安藤那月さん（16）＝大分市横尾Ⅱが24日、医療用ウィッグ（かつら）の材料を寄付する「ヘアドネーション」のため、約4年間伸ばした髪を切った。今回で3回目。保護者は「娘が大切に伸ばした髪を、必要としている人のために役立ててほしい」と話した。

安藤さんは3歳でおたふくかぜにかかり、脳炎を発症。寝たきりになり在宅療養を続けている。自分で話すことはできない。美容室へ行くのも約4年ぶり、腰の近くまで伸びた髪を47センチカットした。初めてヘアドネーションをしたのは小学生の頃。つ

ながりがあつた他県の医療的ケア児が挑戦した姿を見て、母親の歩さん（48）が「娘も誰かの役に立てるのではないか。社会貢献の一環としてチャレンジしてほしい」と考えた。受け入れ可能な美容室を探し、バリアフリー対応をしている大分市猪野の「ヘアメイクSea・la」が

実施していることを知って申し込んだ。中学生の時にも髪を提供し、今回も依頼した。担当した美容師は「髪の状態がきれい、よくケアしていると感じた。大切に扱い、困っている人たちに届けたい」と述べた。

（松尾祐哉）



〔問①〕「ヘアドネーション」とはどのような意味ですか。

例) 医療用ウィッグ（かつら）の材料を寄付すること

〔問②〕安藤那月さんの母親はどのように考えて那月さんに「ヘアドネーション」に挑戦してもらいましたか。

例) 娘も誰かの役に立てるのではないか。社会貢献の一環としてチャレンジしてほしい

〔問③〕あなたができる、またはやりたいと思う社会貢献活動について考えて書いてみましょう。また周りの人とも意見交換してみましょう。

自由記述